



黒川地域 農と環境を活かした まちづくり計画書

(基本計画・実施計画)

平成 31 年 3 月

明治大学・川崎市
黒川地域連携協議会

目次

はじめに	1
本書の構成	2
これまでの取り組みと改定のポイント	3

基本計画編

1. 農と環境を活かしたまちづくりの目的	5
2. 対象地	5
3. 推進体制	6
4. 目標と基本方針	7

実施計画編

1. 実施計画の目的と使い方	8
2. 実施計画の構成	10
3. 平成 31 年度以降の進め方	10
4. 「実施計画」平成 31 年度の取り組み一覧（案）	11

【参考】年度別取り組みシート〈計画と評価〉	13
-----------------------------	----

1. 農産物等研究専門部会
2. 地域活性化検討専門部会
3. 里地里山保全利活用専門部会

はじめに

川崎市麻生区黒川地域は、都市近郊に位置しながら、谷戸田や雑木林、良好な水辺環境や水田など、良好な里地里山の風景が保たれている地域です。

川崎市では、平成 17 年 3 月に農業振興計画『かわさき「農」の新生プラン』に基づき、黒川地域の黒川上地区（約 150ha）と黒川東地区（約 19ha）を農業振興地域に指定しました。また、黒川地域の良好な自然環境の保全のため、地権者の協力のもと、黒川地域内の約 42ha を特別緑地保全地区に指定しています。（平成 31 年 3 月現在）

平成 26 年 3 月には、「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」に基づき、黒川地域（約 201.91ha）が神奈川県の「里地里山等保全地域」に選定されました。

さらに、平成 27 年度には、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」（500 箇所）にも選定され、次世代に残していくべき里地里山の一つであると位置づけられました。

このように、黒川地域は、良好な里地里山の風景が残る地域として、川崎市のみならず、県や国からも高い評価をされています。しかし、里地里山とは本来、長い時間をかけて人々が自然と寄り添いながらつくりあげてきた自然環境であり、この自然環境を維持していくためには、多様な主体の連携による持続的な保全活用の取り組みが必要です。

そのため、「黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり」を推進し、多様な担い手の関わりや連携によって、地域の活性化や持続的に里地里山を維持保全していくため、平成 26・27 年度に基本計画及び実施計画を策定し、平成 28 年度からは実施計画に基づく具体的取り組みを展開してきました。平成 30 年度は取り組みを実施しながら、この 3 年間の成果を振り返り、各専門部会、協議会において今後の取組みについて議論を重ね、基本計画及び実施計画を改定しました。

これまでの取り組みと改定のポイント

平成 28 年度より本格的実施した「黒川地域の農と環境を活かしたまちづくり」では、多様な主体との連携による成果があった。また一方で、取り組みが進展するとともに新たな課題もでてきたことから、これまでの取り組みの成果を整理するとともに、改定のポイントを整理した。

1) 平成 28 年度～30 年度の主な成果

成果 その 1

大学・地元・行政の連携体制ができ、多様な取り組みを進めることができた。

明治大学の准教授が開発したアスパラガスの栽培方法を 17 名もの黒川農業者が参加し、特産品開発を試行、また、地元農業者と明治大学と連携した収穫体験を企画・実施するなど、多様な連携体制を構築することができた。



アスパラガスの実験圃場



黒川農場で食育イベント



地元農家の畑で収穫体験

成果 その 2

里地里山の資源を活かした新たな取り組みが実施され、地域に周知されてきた。

里地里山の資源を活かし、里山アートの展示や農産物の販売、竹あんどんづくりワークショップなど、様々な取り組みを実施し、その関心度、認知度も高まってきた。



収穫祭での販売



サトヤマアートサンポ



竹あんどんづくり

成果 その 3

協議会の取り組みが発端となって、コラボレーションが発生！

黒川の子もたちによる里山アート作品づくり、マイコンシティの企業による里山アートを活かしたイベント開催、黒川竹行燈の会による企業主催の自然観察会への協力など、協議会の取り組みが発端となった様々なコラボレーションが発生した。



子供たちとのワークショップ



シグマ社の写真イベント



小田急電鉄主催イベント

2) 今後の課題（協議会での意見より）

成果を踏まえ、今後の課題として、主として以下の4点があげられた。

- ① 多様な主体が黒川で自主的な活動を行っており、協議会以外の活動も黒川の魅力となっている。これらの取り組みを継続していく必要がある。
- ② 色々な取り組みが黒川で展開されているが、他の部会の取り組みや、協議会以外の取り組みを知る機会が少なく、また、類似している活動もある。
- ③ 実施計画の具体的な取り組みの中には、新たなステージに発展し、専門部会の枠組みに収まらない活動もでてきている。
- ④ 実施計画の具体的な取り組みの中には、まだ実現に至っていない取り組みもある。

3) 改定のポイント

今後の課題から、以下をポイントに、基本計画、実施計画の内容をそれぞれ改定した。

- ① 黒川で取り組む多様な主体とさらなる連携を広げていく。
→ 各部会の取り組みの中で、多様な連携（明大連携、部会連携、地域連携）を進めていく。
- ② 協議会の取り組みをより多くの人に伝えていく必要があり、また、現状の方向性を維持しつつも、多様な取り組みを包括できる方針を設定する。
→ 計画の体系をよりシンプルで分かりやすいものとする。
- ③ 各部会の取り組みだけでなく、協議会全体の取り組みの成果も共有化する。
→ 協議会の成果を皆で共有できる仕組みにする。

基本計画編

1. 農と環境を活かしたまちづくりの目的

川崎市麻生区黒川地域は、豊かな緑と農地が残された里地里山の面影を残す地域です。しかしながら、良好な環境を持続的に維持保全していくためには、農・緑・地域等に関して様々な課題があります。

そのため、本取り組みは、この地域が抱える課題を解決しながら活力ある地域としていくため、農業者・地域住民・大学・行政等が連携し、農と環境を活かしたまちづくりを進めることを目的としています。

■ 黒川地区が抱える課題

農が抱える課題

- 都市農地の保全
- 農家・農業後継者の減少
- 地元農産物の魅力づくりや付加価値の向上

緑が抱える課題

- 里地里山環境の持続的な保全・活用と担い手の確保
- 生物多様性の保全、環境学習環境の確保
- 農業施策と緑地保全施策の連携

地域が抱える課題

- 地域の活性化と増加する来訪者等への対応、マナー向上
- 農業者、地域住民、市民ボランティア、大学、周辺企業、市民等との積極的な連携

2. 対象地

農と環境を活かしたまちづくりの対象地は、下記の「里地里山保全等地域」を中心に、周辺住宅地等と連携しながら取り組みを進めていきます。

川崎市黒川地区

川崎市の北西の突端に位置し、周りを多摩市・稲城市・町田市に市境を接し、豊かな緑が残された里地里山の面影を残すエリアと整備された良好な住宅地を合わせ持つエリア

里地里山保全等地域

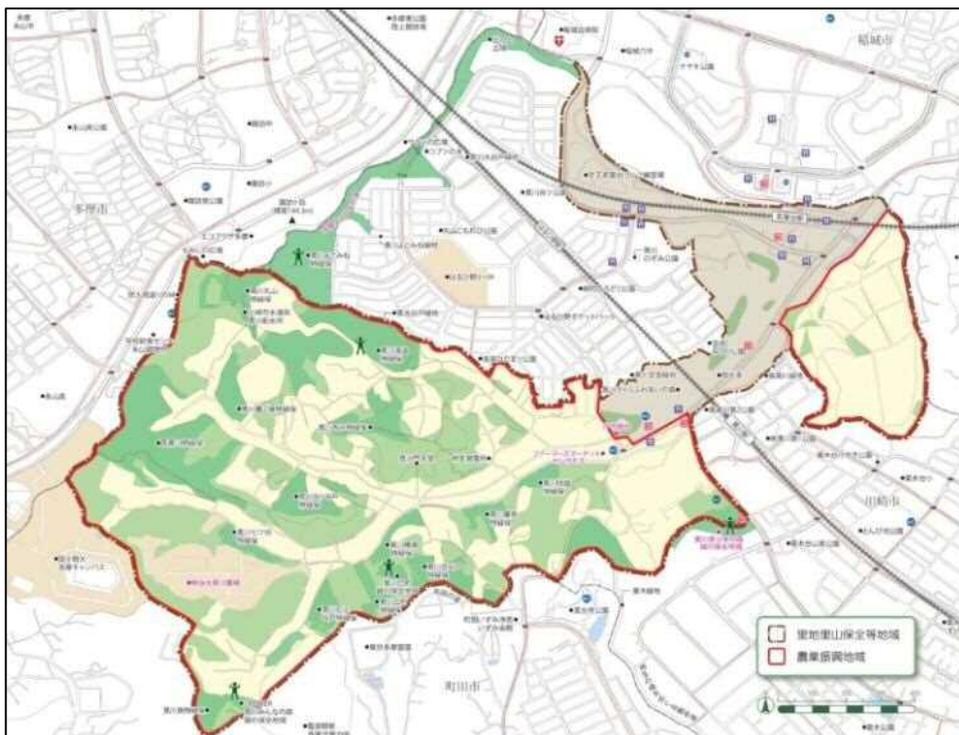
神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例に基づき、選定された地域

最寄り駅

京王相模原線若葉台駅または小田急唐木田線はるひ野駅・黒川駅

近年の変化

平成 20 年に大型農産物直売所「セレスアモス」の開所
平成 24 年に明治大学黒川農場の開場



3. 推進体制

多様な担い手からなる「黒川地域連携協議会」を中心に、3つの方向性を持った「専門部会（農産物等研究専門部会・地域活性化検討専門部会・里地里山保全利活用専門部会）」の体制で、引き続き各専門部会において様々な取り組みを試行・検証の上、継続的に実施していく内容を検討していきます。



明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会

- ◆ 黒川地域関係者の連携・相互協力を図り、農と環境を活かしたまちづくりを推進
 - ◆ 部会間の調整、黒川地区の農と環境を活かしたまちづくりの方針・計画等の承認
- 【構成】明治大学、明治大学黒川農場、JAセレサ川崎、JAセレサ川崎生産組合黒川支部、神奈川県農政部署、黒川町会、経済労働局産業振興部、建設緑政局緑政部、麻生区役所、経済労働局農業振興センター(事務局)

支える組織

農産物等研究専門部会

新規農産物や郷土農産物の栽培推進、農産加工品の開発検討、商品化に向けた検討等を推進

【構成】
明治大学黒川農場、JAセレサ川崎、神奈川県農業技術センター、麻生区役所、経済労働局農業振興センター（事務局）

地域活性化検討専門部会

農と里山環境を通じたイベント等の実施や認知促進を通じた活性化の検討・推進

【構成】
明治大学黒川農場、JAセレサ川崎、黒川観光農業振興会、黒川町会、経済労働局、建設緑政局、麻生区役所（事務局）

里地里山保全利活用専門部会

里地里山の体験・利活用を通じて、持続的な里地里山の保全、再生、活用を推進

【構成】
明治大学黒川農場、JAセレサ川崎、黒川緑地管理協議会、黒川はるひ野管理組合、黒川竹行燈の会、黒川宮農団地管理組合、神奈川県農政事務所、経済労働局農業振興センター、麻生区役所、建設緑政局（事務局）

4. 目標と基本方針

目 標：地域の農業資源・環境資源・人的資源を活用した地域の活性化・地域交流の推進
～持続的な里地里山環境の保全に向けて～

基本方針：農産物等の地産地消（農産物等研究専門部会）
農と里山体験・地域交流（地域活性化検討専門部会）
里山の保全と活用（里地里山保全利活用専門部会）



(1) 農産物等の地産地消

農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

(2) 農と里山体験・地域交流

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な情報発信を行う。

(3) 里山の保全と活用

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

実施計画編

1. 実施計画の目的と使い方

■ 実施計画の目的

本実施計画は、「農と環境を活かしたまちづくり 基本計画」の基本方針を具体化するため、今後、地元農業者・地域住民・大学・行政等が連携した取り組みを持続的かつ効果的に推進するための具体的な取り組み事項をとりまとめたものです。

取り組み事項については、地域課題や地元のニーズ等に柔軟に対応するため、当初よりその内容を固定することなく、実施方針に基づく取り組み事項を毎年定め、その実施効果を確認しながら、毎年度、取り組みを見直し、充実・強化を図り、より良いまちづくりを進めていくものとしています。

■ 実施計画の期間

本実施計画は、基本計画の基本方針に基づき、毎年様々な取り組みを試行しながら進めていきますが、3年程度を目処に毎年の成果を評価・検証を行い、基本計画の内容（目標、体制、実施方針等）についても必要に応じて修正等を加え、更なる継続をしていくものとしています。

■ 実施計画の構成と使い方

本実施計画は、単なる計画として終わることなく、その実施内容の結果や評価を一元的に確認することが可能なように、各取り組み事項の詳細計画とその評価をとりまとめることのできるシートを添付しています。

実施計画

・基本計画の実施方針に基づき、以下の事項を定めています。

① 実施方針の具体化の考え方

実施方針別に具体的な取り組みの方向性とその考え方についてまとめています。

② 取り組み

次年度に実施する具体的な取り組み項目とその内容をまとめています。なお、取り組みについては、実施効果を踏まえ、毎年新たに設定するものとします。

参考 年度別取り組みシート〈計画と評価〉

毎年の取り組みの計画と評価を一元的に取りまとめるシートとなっています。

（※本書では、シートのひな形を掲載しています。）

① 専門部会別取り組み事項の計画の作成

・3つの専門部会ごとに、当該年度において実施する取り組み事項を計画としてまとめます。

② 専門部会別取り組み事項の実施状況と評価の作成

・3つの専門部会ごとに、当該年度において実施した状況とその効果や評価を一元的にまとめます。

③ 次年度に向けたとりまとめ

・各取り組み事項の評価結果等をもとに、まとめと次年度の取り組みにつなげていきます。

【参考】各取り組みの「計画」シートと「実施・評価シート」の記載例

3つの専門部会ごとに、当該年度で実施する取り組みについて、その計画内容を左側1ページにとりまとめ、その右側に実際の実施状況・評価をとりまとめ、取り組みごとに見開き2ページで、計画と評価をまとめています。

取り組み成果としてのパンフレット、チラシ、活動写真については、適宜シートを追加し、とりまとめるものとしています。

計画

取り組み内容が簡潔に把握できるように、取り組み概要をとりまとめた上で、前提となる課題や条件、目標、実施体制、具体的な実施内容（実施予定日、実施場所、周知方法等、内容、予算）を記載します。

実施・評価

実施状況の写真や実施概要の記載とともに、参加者や主催者の声、アンケート結果などをとりまとめ、その評価や今後の進め方について専門部会での検討内容を記載します。

地-4-1 <グリーンツーリズム> トマト&ブルーベリー収穫体験の実施	
■計画概要	
概要・目的	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 20～30代男女のモニターを募集し、トマトとブルーベリーの収穫体験と、とりたてを食べる食農体験イベントを実施 <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 【産地PR】 黒川産の野菜や果物のPR。参加者に農業を楽しみ、興味関心を深めてもらい、黒川や農業を身近に感じてもらうきっかけとする。【参加者以外へのPR】 報道取材やSNSによる発信により、参加者以外へも幅広い県民の農業についての関心を高める。 【ニーズ調査】 若い世代の農業についてのニーズや活性化のための意見をいただき、今後の取り組みの参考にする。
実施体制、対象者等	<p>主催：県市区役所</p> <p>協力：明治大学黒川農場、セレサモス、川崎市農業振興センター農地課</p> <p>別業者：川崎市在住・食学の20～30代の男女（モニターとして、当日及び後日送付のアンケートにご回答いただける方）</p>
実施内容	実施予定日
	実施場所
	周知・PR
	内容
予算等	参加費無料
その他	—

■実施結果	
実施日時	平成29年7月22日（土） 9:30～13:30
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ブルーベリー収穫体験：川崎市が営んでいるブルーベリー畑 トマトの収穫体験&農場見学：明治大学黒川農場 座談会&アンケート等：明治大学黒川農場
参加者数	14名（申込：22名、欠席連絡済3名、連絡なし5名）
実施状況（写真等）	
主催者や参加者の声（主な意見、感想）	<ul style="list-style-type: none"> ・無生区にこんな取組があると知らなかった。 ・収穫体験は、よい経験になった。 ・区内に農地があることが分かったり、農場に入ることができて、嬉しい場所だった。 ・20～30代が対象だったので、1人でも参加しやすかった。
評価と今後の基盤の方針（専門部会での検討事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫できる量が多く、参加者の満足度が高かった。また、座談会を実施したことで参加者同士の間柄が深まった。 ・SNSやかわのききイベントアプリ等を活用した告知方法の検討。
その他	—

2. 実施計画の構成

平成 30 年度以降の実施計画の構成を以下のように定めます。

基本方針	実施計画	
	実施方針	取り組み（例）
農産物等の地産地消 農産物等研究専門部会	農産物等の栽培技術、営農環境の向上	効率的・効果的な農産物の栽培や、地域の特色ある農産物の栽培など、黒川の農業者の栽培技術や営農環境の向上に向けた取り組みを実施する。 ・栽培技術の向上に向けた取組の検討・実施 など
	黒川の農産物の知名度向上と PR の推進	黒川の農産物をより多くの人に知ってもらい、親しんでもらえるよう、明治大学収穫祭でのイベント販売をはじめ、セレスモス、その他スーパー等、多様な連携を推進し、PR する。 ・収穫祭等における黒川産農産物の PR など
農と里山体感・地域交流 地域活性化検討専門部会	黒川の魅力情報の発信	黒川の魅力である里山風景や、協議会や協議会で取り組んでいるイベント等を広く発信し、多くの人に黒川地域の魅力を伝える。 ・黒川里山の風景の PR など
	農と里山を体感するイベントによる地域連携強化	黒川里山の魅力を体感するイベントを開催するとともに、地域で開催される魅力あるイベントとも連携し、黒川地域を活性化する。 ・グリーンツーリズムの実施 ・地元主催アートイベントへの協力 など
里山の保全と活用 里山里山保全利活用専門部会	里山の体験・利活用	里山環境とふれあう機会をつくるため、里山の竹材や木材の利活用や里山環境を活かした多様な体験を提供する取り組みを実施する。 ・竹を使ったワークショップ など
	里山の保全管理	持続的な里山環境の保全と担い手の確保につながるため、地域の団体との連携による保全管理等の取り組みを実施する。 ・里山の保全活動体験イベントの実施 など

3. 平成 31 年度以降の進め方

平成 30 年度に改定した「実施計画」に基づき実施していきますが、具体的な取り組みは、毎年の成果を踏まえ、毎年設定します。また、おおむね 3 年程度を目途に、必要に応じて基本計画の内容についても適宜修正します。



4. 「実施計画」平成31年度の取り組み一覧（案）

基本方針	実施方針	No.	取り組み項目	概要
農産物等の 地産地消 農産物等研究 専門部会	農産物等の 栽培技術、 営農環境の 向上	農1	大学と連携した意見 交換会、講座の開催	目的：明治大学の先端技術やノウハウを活用した農業活性化。 内容：大学の研究成果等を共有できるよう、地元農業者が参加で きる意見交換会や講座を開催する。
		農2	栽培技術の向上に向 けた取組の検討・実施	目的：大学等と連携し、栽培技術の向上を図る。 内容：農産物の栽培方法等に関する勉強会や研修会等を開催し、 黒川における栽培技術の向上を図る。
	黒川の農産 物の知名度 向上とPR の推進	農3	地域イベント等を通じ た黒川産農産物の知 名度の向上	目的：地域イベント等を通じ、黒川産農産物の知名度向上を図る。 内容：黒川の農産物を身近に親しんでもらえるよう、黒川地域で 行われるイベント等を通じ、知名度向上を図る。
		農4	収穫祭等における黒川 産農産物のPR	目的：販売会を通じて黒川産農産物のファンを増やす。 内容：明治大学等と連携しながら、黒川産農産物をPRする。
農と里山 体感・ 地域交流 地域活性化 検討専門部会	黒川の魅力 情報の発信	地1	黒川里山の風景のPR	目的：里山の四季の風景をより多くの人に楽しんでもらう。 内容：麻生区のホームページやツイッター、また、街中でのポス ター掲示等を通じて、魅力ある里山風景を発信する。
		地2	協議会の取り組みや イベントのPR	目的：協議会と、協議会の取り組みをより多くの人に発信する。 内容：部会連携を強化し、協議会の取り組みや成果を麻生区HP 等で紹介。
	農と里山を 体感するイ ベントによる地 域連携強化	地3	グリーンツーリズム の実施	目的：黒川の魅力を体感してもらい、再来訪のきっかけをつくる。 内容：市民を対象に、明治大学や地元農家と連携した収穫体験を 開催。
		地4	地元主催アートイ ベントへの協力	目的：農と里山を体感するイベントを応援し、活動を活性化する。 内容：地元主催のアートイベント「緑と道美術展in黒川」の広報協力 (チラシやパンフの配架やHP掲載、パネル展示等)を行う。
里山の 保全と活用 里地里山保全利 活用専門部会	里山の 体験・利活用	里1	竹を使ったワーク ショップの実施	目的：竹林の整備の発生材活用と竹林管理の意識啓発を行う。 内容：地元小学生とともに、竹林から竹を伐り出すところからは じめる竹を使ったワークショップ(竹あんどん等)を開催。
	里山の 保全管理	里2	里山の保全活動体験 イベントの実施	目的：体験を通じた、新たな保全活動の担い手の発掘。 内容：黒川周辺の団体などに呼びかけを行い、多様な連携を図り ながら里山保全活動体験を実施する。

No.	実施箇所	実施体制	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
農1	明治大学 黒川農場 (予定)	担当:農地課他 協力:明治大学 対象:地元農業者			検討		未定											
農2	黒川地域	担当:農地課他 協力:明治大学等 対象:地元農業者	←-----栽培技術の向上に関する研修等----->															
農3	明治大学黒川 農場、地元農 業者の畑	担当:農地課他 協力:JAセレサ川崎、企画課等 対象:市民							イベント ○				イベント ○					
農4	明治大学 黒川農場 他	担当:農地課他 協力:明治大学、JAセレサ川崎他										収穫祭 ○						
地1	—	担当:企画課	←-----ポスター掲示・SNS等による情報発信----->															
地2	—	担当:企画課	←-----HP等による情報発信----->															
地3	黒川地域	担当:企画課、地元農業者、明治大学 協力:農地課、JAセレサ川崎 対象:市民							イベント ○				イベント ○					
地4	黒川・ はるひ野地域	主催:黒川緑地管理協議会他 協力:企画課、みどりの協働推進課他							←-----		美術展 ○							
里1	営農管理倉庫、 黒川地域	担当:みどりの協働推進課 協力:黒川竹行燈の会 対象:地元小学生、保護者							←-----		収穫祭 ○							
里2	黒川よこみね 緑地、他	担当:みどりの協働推進課 協力:黒川緑地管理協議会 対象:市民、黒川周辺企業や団体等										←-----		体験イベント ○				

【参考】年度別取り組みシート<計画と評価>

1. 農産物等研究専門部会用

農-〇 取り組み項目タイトル

計 画

概要・目的		
実施体制、対象者等		
実施内容	実施予定日	
	実施場所	
	周知・PR	
	内容	
	予算等	
その他		

実施・評価

実施概要	実施日時	
	実施場所	
	参加者数	(募集人数・応募者数)
実施状況 (写真等)		
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)		
評価と今後の進め方 等 (専門部会での検 討事項)		
その他		

2. 地域活性化検討専門部会用

地-〇 取り組み項目タイトル

計 画

概要・目的		
実施体制、対象者等		
実施内容	実施予定日	
	実施場所	
	周知・PR	
	内容	
	予算等	
その他		

実施・評価

実施概要	実施日時	
	実施場所	
	参加者数	(募集人数・応募者数)
実施状況 (写真等)		
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)		
評価と今後の進め方 等 (専門部会での検討事項)		
その他		

3. 里地里山保全利活用専門部会用

里-〇 取り組み項目タイトル

計 画

概要・目的		
実施体制、対象者等		
実施内容	実施予定日	
	実施場所	
	周知・PR	
	内容	
	予算等	
その他		

実施・評価

実施概要	実施日時	
	実施場所	
	参加者数	(募集人数・応募者数)
実施状況 (写真等)		
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)		
評価と今後の進め方 等 (専門部会での検 討事項)		
その他		

